

夏秋トマトの側枝2本仕立てセル苗定植による低コスト化

福島県農業総合センター 作物園芸部 野菜科

部門名 野菜—トマト—夏秋

担当者 横田祐未・石栗詩歩

I 新技術の解説

1 要旨

県内の夏秋トマト栽培は購入接ぎ木セル苗をポットに鉢上げして育苗をする主枝1本仕立て栽培（以下、慣行ポット栽培）が主流である。購入接ぎ木セル苗を定植前に摘心をして側枝2本を出させる側枝2本仕立てセル苗を利用することで、種苗費の削減や定植作業時間の省力化が図られる。

- (1) 側枝2本仕立てセル苗は、72穴の接ぎ木セル苗を購入後、本葉2枚上での摘心と本葉2葉目の摘葉後7～10日程度育苗を行い、側枝の本葉が2～3枚出葉後定植する（図1、図3）。
- (2) 5月定植の場合、側枝2本仕立てセル苗栽培は、株間30cmにすることで、慣行ポット栽培と同等の収量を得られる（図2）。
- (3) 6月定植の場合、側枝2本仕立てセル苗栽培は、主枝1本仕立てセル苗栽培と同等の収量を得られる（図2）。
- (4) 側枝2本仕立てセル苗を利用した場合、慣行ポット栽培と比較して種苗費は42%減となり、育苗と定植作業を合わせた作業時間は92%減となった（表1）。

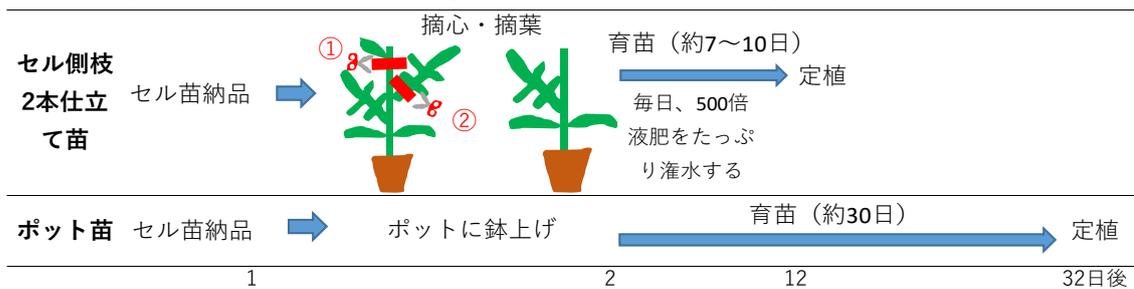


図1 側枝2本仕立てセル苗の育苗スケジュール

2 期待される効果

- (1) 種苗費の削減と、定植作業の省力化が図られる。

3 適用範囲

県内全域

4 普及上の留意点

- (1) セル苗の直接定植となるため、必ず定植前にECを確認し、基肥に窒素成分は施さない。定植後は、給液孔が10cm間隔の点滴かん水チューブを株の両側に設置してかん水同時施肥を行う。
- (2) 側枝2本仕立てセル苗は、畝幅80cm、1条植えで行い、左右振り分けで誘引する。

II 具体的データ等

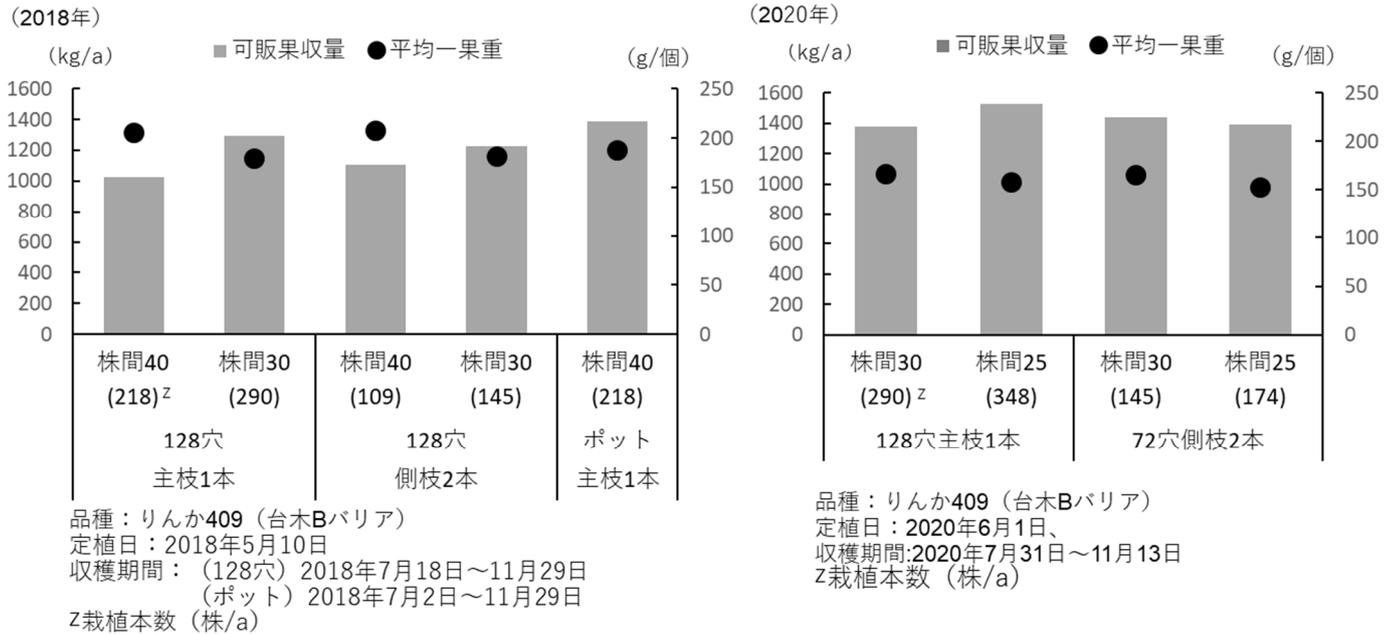


図2 可販果収量と平均一果重



図3 定植時の側枝2本仕立てセル苗の苗姿イメージ

表1 苗の形状による種苗費と育苗及び定植時間

苗の形状	株間 (cm)	種苗費 ^Z (円/a)	育苗時間 ^Y (分/a)①	定植時間 (分/a)②	①+② (分/a)
128穴主枝1本	30	47,270	2	51	53
72穴側枝2本	30	23,929	33	26	59
慣行ポット	40	40,958	686	56	742

Z:128穴主枝1本は購入128穴セル苗、72穴側枝2本は購入72穴セル苗を摘心して10日間育苗、慣行ポットは購入128穴セル苗を9cmポットで30日間育苗した場合の苗代。

Y:主枝1本は購入128穴セル苗を2日間温室で育苗した場合の灌水時間、側枝2本は摘心作業と摘心後10日間育苗した場合の灌水時間。

III その他

1 執筆者

横田 祐未

2 成果を得た課題名

(1) 研究期間 平成29～令和2年度

(2) 研究課題名 主要野菜の安定生産技術の確立（夏秋トマトの省力化技術の確立）

3 主な参考文献・資料

(1) 大木淳,丸小武志,トマト側枝2本仕立て苗の摘心位置と摘心時期が低段密植栽培の生育・収量に及ぼす影響,東北農業研究,67,p.107-108,2014

(2) 野村康弘,鈴木隆志,夏秋期トマト作期分散に必要な栽培様式の検討,岐阜県中山間農業技術研究所研究報告(5),p.17-20,2005